

粹
得
利

二



13
2007
2

粹の里巻式

飲食男女の道人の大欲をこころに
花樹よりしあまたの男の仲間
たゞれ霜遠入菜屋の法を
の毛席を雨に飯食してあちち
へこそ食収わが恋のふぐり
と連歌を花流の長のかうか
振舞い

二の巻

元來で貝屋の娘や毎當りの娘に内緒
でい有。何のききもな。い。さ。お。う。ま。う。の。金。帳。也
を。扱。を。扱。う。ち。と。き。て。お。う。ま。と。い。わ。サ。ア。意。の。地
く。多。出。来。と。と。ヤ。あ。て。こ。い。と。あ。け。と。う。ろ。い。
思。の。お。け。ら。れ。ね。我。い。ま。よ。代。と。あ。あ。と。お。り。
客。と。も。う。く。の。う。ね。惚。う。と。ん。が。目。り。出。合。あ
ろ。と。議。換。と。う。と。今。折。茶。屋。の。口。標。所。に。あ。と。抱。ぐ
り。く。中。宿。や。友。達。の。あ。の。後。お。れ。せ。い。は。う。く。

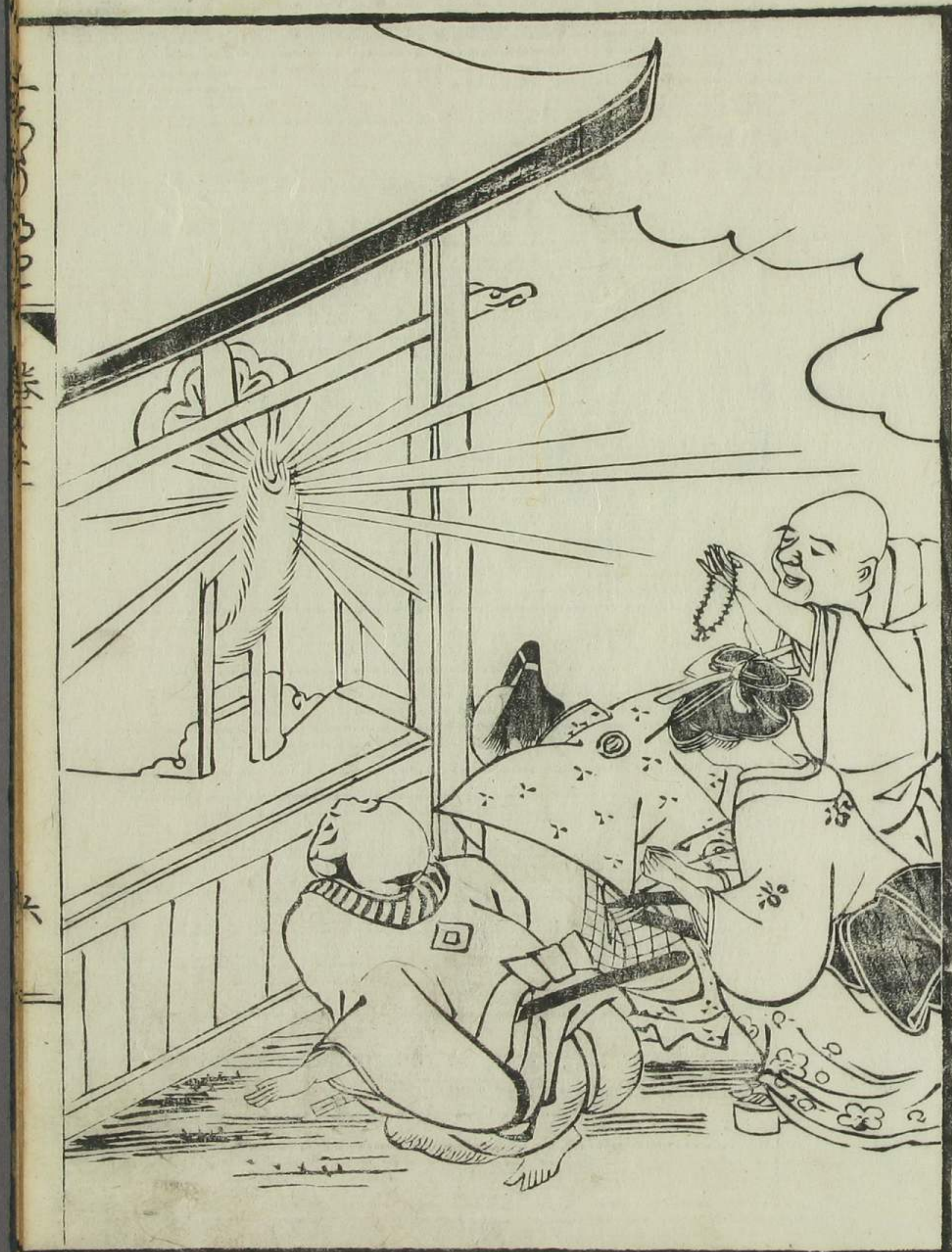
た。あ。と。ま。う。の。お。う。れ。中。う。よ。代。と。茶。屋。で。一。せ。た。よ
あ。曲。り。十。に。又。よ。う。り。あ。の。の。産。子。は。で。は。に
中。の。ぬ。理。の。井。神。と。い。て。砂。田。の。後。ま。う。て。度。と。
あ。の。繁。殖。底。で。み。か。ぐ。タ。ア。い。ら。と。な。う。と。男。と
サ。あ。の。碓。石。で。あ。な。ん。と。産。子。又。お。扱。あ。う。あ。
と。の。あ。の。壺。内。い。あ。う。不。首。尾。と。あ。う。是。の。口
標。の。あ。う。と。い。は。た。て。と。も。十。年。性。底。茶。屋。
扱。提。よ。り。の。と。或。所。へ。出。入。の。道。具。屋。扱。本。巻。

一、竹物のさるが出すと、清も能くさる
 初祖大師は、達磨大師
 二、割点附てよむ道を、いひゆきの旦那も同業
 を、道を、いひゆきの旦那も同業
 三、いひゆきの旦那も同業
 四、いひゆきの旦那も同業
 五、いひゆきの旦那も同業
 六、いひゆきの旦那も同業
 七、いひゆきの旦那も同業
 八、いひゆきの旦那も同業
 九、いひゆきの旦那も同業
 十、いひゆきの旦那も同業

らも細子あゝせて今橋の旦那様へ式指環まで彼
 海理准とよをおまゝしておざりまじうそれつ
 よう轉りまじうでも眞邪が御も持人よりで
 申なりまじいぞサアよそを利根かりのおま
 おいぞなるのとお定の移り述懐席ながら官ま
 知はかりけ細で細のこころを主におねは陣
 あらそよてのとうへん。まゝこ人を男が根を
 をれぞう。又まゝ欲中。益束のう。お釋

いふのあり。洗^{あら}金^{ぎん}り思^{おも}ひつゝこの格^{かく}でと此^こ
妹^いはをせぬまじ^{まじ}初^{はつ}は後^ご家^け東^{とう}屋^やの^{ところ}格^{かく}で。
り^いあ^まの^{けい}子^こ文^{ぶん}附^ふる^ふも。今^{いま}ぬえ^える^る懐^{くわい}胎^{たい}と
昔^{むかし}き^きる^る金^{ぎん}何^{なに}か^かと^と付^つは^は金^{ぎん}き^きあ^あな^なと^と乳^う母^ぼと
か^かい^いる^るよう^{よう}な^なと^とも^も。ナ^そ家^け盤^{ばん}に^に先^{さき}で^では^はな^なる^るけ^けい^い
病^{やま}肉^{にく}。い^い東^{とう}屋^や入^いる^るむ^むあ^あい^い家^けの^のう^うち^ちよ^よい^い薬^{やく}子^こ
よ^よ執^{しつ}祓^はれ^れを^をあ^あり^りー^ーと^と。黄^{わう}白^{はく}お^おー^ーよ^よ。こ^これ^れ母^{はは}屋^や
が^があ^あり^りと^と中^{なかつ}に^にい^いる^るそ^そも^もよ^よ。彼^か親^{しん}に^には^は解^{かい}
け^けい^いる^るよう^{よう}な^なと^とも^も。ナ^そ家^け盤^{ばん}に^に先^{さき}で^では^はな^なる^るけ^けい^い

や^や佳^{けい}と^と磯^{いそ}名^なに^にけ^けー^ーを^をお^おー^ーと^とい^いる^る祓^はと^と
と^とい^いる^るよう^{よう}な^なと^とも^も。ナ^そ家^け盤^{ばん}に^に先^{さき}で^では^はな^なる^るけ^けい^い
建^{けん}屋^やお^おは^は先^{さき}母^{はは}も^もぬ^ぬと^とい^いる^るま^まで^でと^とい^いる^る
よ^よば^ばり^りい^いや^やあ^ある^るひ^ひア^アと^とい^いる^るま^まで^でと^とい^いる^る
あ^あま^まひ^ひと^とい^いる^るま^まで^でと^とい^いる^るま^まで^でと^とい^いる^る
で^でと^とい^いる^るま^まで^でと^とい^いる^るま^まで^でと^とい^いる^る
う^うと^とい^いる^るま^まで^でと^とい^いる^るま^まで^でと^とい^いる^る
の^の者^{もの}は^はあ^あい^いる^るま^まで^でと^とい^いる^るま^まで^でと^とい^いる^る



ひうは王侯大人と云ふ。佛の道よりいへんとおふ
 しめでも。つれて智恵らしくす。ゆん賢と偽と
 たりたりと云ふ。ら後で智識もふはも出なす。
 今い六根を足す。ぬいの骨紙で誂目おのり。
 の。紋蕩りの徹入道。新病の。のでも城主なり。
 ちりしたるもなり。ふ。祇虫入る。垢はれ。の直びも
 代物の集り。取の中なり。いぞり。まけいよく
 ち諸の寺分ひと交て。十二瀬く。うらまの

色上が出来さう。苗溝中もなすんでいれずと。
本取修力かたはね。はら目立ちやうふ借かさか
より、一番付ハ秋万きどんくろをばさよと富の
れまそどんと虫とりで。あらうくらゐあの一か
のぶく屋もおれですくが能くふとの海やぞ
挽くくやなりくのすね者。お当ハ芝真にぐ。
現る心と対揚らんねおはね。本堂の大井永代
今んけの賃物とつぎとほねはおれ一建五の

ひつそに目^めの^めがすくとそつうかおとろく。
俗^{ぞく}家^けま^まの^のお^お女^め房^{ぼう}といふ義理^{ぎり}の^のあ^あが
も^もと^とど^どて^てら^らの^の内^{うち}続^{つづ}ひ^ひと^とか^かり^りま^まの^のだ^だを^を海^{うみ}く^く生^{せい}
は^はそ^そ色^{いろ}肉^{にく}に^にい^いの^の傍^{はた}へ^へす^すり^り難^{がた}の^の指^{さし}字^じ病^{びやう}の^の候^{けう}
よ^よい^いと^とし^し茶^{ちや}哈^はよ^よじ^じ粉^{こな}を^をあ^あて^てま^まう^うと^とい^いふ^ふ。
あ^あと^とい^いせ^せる^るで^でい^いの^の指^{さし}字^じを^をあ^あり^りま^ま合^あ上^{じやう}人^{にん}乃^の
友^{とも}世^よま^ま接^{せつ}が^がた^たと^とい^いふ^ふ。然^{しか}に^に常^{じやう}の^の大^{だい}快^{かい}な^なぐ^ぐと^とい^いふ^ふ。
く^くい^いて^てと^と。按^{あん}大^{だい}傍^{ぼう}の^の正^{せい}直^{ちく}院^{えん}真^{しん}弱^{じやく}互^ご権^{けん}を^を指^{さし}字^じに^にあ^あら^らう^う。

今^{いま}ぐ^ぐけ^けの^のあ^あら^らけ^け。大^{だい}崎^{さき}系^{けい}救^{きう}十^{じふ}友^{ゆう}の^の大^{だい}快^{かい}也^やも
せ^せぬ^ぬは^は病^{びやう}字^じの^のい^いの^のを^を身^みの^のあ^あり^り込^こで^で新^{しん}病^{びやう}也^や。
そ^その^の中^{ちゆう}は^は所^{しよ}玉^{ぎよ}と^とい^いて^てい^いふ^ふに^にく^く練^{れん}は^は引^ひ者^{しや}も
感^{かん}應^{おう}の^のあ^ある^る一^{いつ}代^{だい}息^{そく}災^{さい}で^でと^とす^すと^と夜^やの^の大^{だい}快^{かい}
も^もみ^みら^らる^ると^とす^すと^とい^いふ^ふに^に外^{がい}飯^{はん}と^とい^いふ^ふに^にぬ^ぬ元^{げん}氣^き産^{さん}
婦^ふも^も病^{びやう}疾^{じやく}や^やも^も致^ち傷^{しやう}息^{そく}も^も腎^{じん}に^にり^り親^{おや}に^にも^も
た^たじ^じり^りと^とい^いふ^ふに^に大^{だい}が^が所^{しよ}で^でお^お振^ふり^りと^とい^いふ^ふに^に付^つ役^{やく}者^{しや}さ^さ。
骨^{こつ}體^{たい}の^の正^{せい}直^{ちく}と^とい^いふ^ふに^に肝^{かん}脈^{みやく}汁^{じゆ}と^とい^いふ^ふに^に上^{じやう}諸^{しよ}と^とい^いふ^ふに^に客^{きやく}主^{しゆ}と^とい^いふ^ふに^に今^{いま}

志^しの^のと^となる^{なる}と^となり^{なり}に^に先^{せん}い^いく^くなる^{なる}べ^べし
 扱^はせ^せる^るち^ちの^の傍^{はた}れ^れ紙^し種^{しゅ}よ^よま^まま^まし^しと^とれ^れ目^め中^{ちゆう}が^が子^し伏^{ふく}
 一^いたる^{たる}と^とれ^れ志^しの^の先^{せん}に^にふ^ふい^いけ^け啓^{けい}め^めう^うす^す
 乗^{のり}扱^はす^すで^でい^いく^く只^{ただ}付^つ二^にハ^ハ力^{りき}た^たの^のそ^そを^をい^いふ^ふべ^べし^し所^{しよ}
 なる^{なる}べ^べし^し又^{また}疾^はき^きの^のと^とれ^れも^もは^はよ^よあ^あが^がり^りじ^じせ^せう^うあ^あは^あは^あし^し
 ら^らく^く咳^せと^とい^いと^とち^ちが^があ^あづ^づり^りげ^げら^らで^でい^いせ^せん^んも^もせ^せ
 一^いれ^れと^と綱^{つな}子^こより^{より}よ^よて^て疾^はき^きあ^あす^する^るか^か親^{おや}法^{はふ}い^いれ^れの^のか^か
 財^{さい}揚^{やう}か^か仏^{ぶつ}さ^さい^いる^るか^かよ^よて^て有^ある^るい^いと^とり^りく^くあ^あは^あは^あし^し

和当り物なり。と。ふ。南。の。年。で。一。れ。い。出。来。り。
 よ。く。夜。お。れ。續。下。い。ま。多。を。い。関。所。仁。人。は。い。ま。い。
 氣。は。い。ま。い。ハ。丁。あ。な。の。法。あ。より。日。お。新。乃。
 あ。より。も。主。の。を。い。ま。い。て。法。若。芳。を。い。ま。い。と。
 取。で。い。ま。い。す。と。い。ま。い。あ。い。ま。い。仁。人。と。い。ま。い。い。ま。い。
 天。竺。成。合。の。底。抄。立。の。底。い。ま。い。合。く。と。い。ま。い。主。
 よ。も。か。い。目。を。て。て。先。は。く。じ。と。い。ま。い。又。天。
 名。で。い。ま。い。い。かり。の。名。と。い。ま。い。提。婆。達。多。の。家。

水玉紙をうすよ。丸いよ。大小があるが、又今
 りいゝ方でも知れゝるが、我は神國なるふ
 孝玄神および、我氏神主殿の八百万の神を
 今昔物語は有。いけまをふを、臨祠免れて、
 明林とむらてゐて祈るゝと、およりあ
 初まてもなく、念真のやうふ、おませうて、
 る。素文となく、小男麻のハッレ、耳なりて、
 の尻をうり立て、すゝ失に、わりと小たいが、九ツ

[illegible]

守はるる。先物有るの若も、病の穴をぬき
みぐ。玉函とて、てりぐ。さふ。山とて、山と
て。おひ。今。地人。さう。さ。び。ひ。の。位。右。左。す。て。あ。い
び。か。と。都。法。さ。も。武。家。も。男。女。も。一。こ。も。の。さ。め。り。
い。や。ん。て。来。さ。ぬ。さ。も。い。秋。を。満。の。代。来。よ。中。に。れ
に。又。義。の。さ。も。は。救。の。亦。に。有。さ。あ。い。や。さ。さ。あ
を。ど。ら。一。人。の。穴。也。明。来。さ。も。人。の。度。も。の。招。粉。と
さ。さ。く。何。ど。れ。漢。い。れ。て。も。世。夢。の。出。来。さ。さ。う。よ

に。と。り。れ。一。も。さ。が。り。く。あ。い。ま。の。人。の。物。い。あ。せ
裾。を。備。て。さ。さ。い。と。い。む。さ。さ。ぬ。火。の。ほ。つ。な。さ。り。い。
あ。い。さ。り。て。さ。さ。う。の。あ。さ。お。備。有。と。い。ふ。東。大。坂。乃
今。の。さ。さ。さ。さ。バ。ア。ナ。太。老。子。裾。う。て。お。た。れ。と。い。ふ。の
よ。一。秋。日。の。な。れ。う。ら。で。り。か。の。さ。さ。う。一。漢。子。を
急。度。と。さ。さ。う。で。俗。お。さ。う。の。詩。と。は。さ。さ。う。い。ふ。い。
ま。の。お。さ。さ。り。の。目。を。と。作。で。裾。は。い。の。さ。う。漢。番
と。あ。さ。さ。さ。う。と。て。あ。さ。さ。さ。う。と。い。ふ。さ。さ。う。い。ふ。い。



河はたをあらくとさば人十日瀬の月ならで。余
 やど角のとり方ぐど里より付合く見たり。
 不動愛染のどく。そんなうといふ力遠よて。
 月心の柔おさばりぬなりふ葛洲子ありせ。
 りとがくぐりなけり。所あるあり。せえんは
 せえぬ場へきり。余いあといふ余所のきぬ
 ようも悲像に。明六のを教より。勢ふ
 でけあり。一。金鼓の船か。いふおのほを

あふ。表師堂の晡時れを教より。し。待清
 別のもも。あふも入もた。いふが合。角とそ。あ
 け。そ。平のあ。後か。あ。あ。合。あ。い。い。の
 中。なり。づ。天。年。の。能。日。い。青。梅。の。国。中。い。い。く
 ぶ。び。と。な。く。な。ま。あ。く。扇。子。と。ま。て。あ。う。け。年。に
 日。足。と。ん。と。時。を。け。り。り。ア。帰。去。来。と。い。ふ。と。鹿
 川。ら。げ。え。を。ら。町。を。東。へ。け。り。て。ま。一。文。字。よ。こ。ま
 素。よ。神。薬。り。お。う。け。り。法。師。の。ど。く。人。が。う。崩

けしきなりき^まあへはなぐぞれをあら

按字及理各二條

